

# 明日への扉

No.25



竹迫 由香子 さん

## 女性をより美しく見せる

## メイクへの飽くなき探求



写真は250点満点で優勝した全国大会作品。控室で髪や衣装を50分で整え、大勢の観客が見守る会場で僅か20分でメイクを仕上げる。衣装、髪型、メイク等が正確かつ世界観が一致しているかが審査された。

昭和48年鹿屋市生まれ。鹿屋高校卒業後、長崎市の活水女子短期大学へ進学。平成5年熊本市内の美容室に就職。平成9年に母が経営する田代美容室（現・アズーリ／新川町）へ。平成25年全国日本美容技術選手権大会メイクの部で優勝。夫と2児の4人暮らし。（43歳）

いずれは鹿屋に戻りたいと思っていたので、何か資格があればいつでも帰ってこれると考え、短大卒業後は、美容師の世界に飛び込みました。美容師である母の大変さも分かっていましたが、仕事をしながら子育てしていた姿に漠然と憧れていたからだと思います。


美容師としてはスタートが遅いほうでしたが、就職した熊本市内の美容室は比較的大きな美容室だったので、カットはもちろん、花嫁着付けなど美容全般を学ぶことができました。そして4年間勤務したのち、平成9年から実家で働くようになりました。

熊本と地元の地域性の違いや世代間の考えの違いもあり、当初は戸惑いもありましたが、常に全国レベルの、どこに行っても恥ずかしくない技術を身に付ければ、自信を持って仕事ができると考え、帰郷後も研鑽を積むために県内外の様々な講習会で勉強に励みました。

コンテストへの出場も、技術を早く覚えるために重要なこと。熊本でも出場経験はありましたが、鹿児島県代表として全国大会に出場したいという夢がありました。そして平成20年、21年と2年連続で全国美容技術選手権大会の洋装ブライダル部門に県代表として出場し、いずれも入賞しました。

その後はしばらく子育てのためコンテストから遠ざかっていたのですが、平成24年の大会からメイク部門が創設され、なんと初代優勝者に、以前同じ師匠のもとで学び合った群馬県代表の美容師が選ばれたことを知り、衝撃を受けたのです。メイクは普段から伸ばしていきたいと思っていた部門。刺激を受け、もう1回チャレンジしようと思いつき、翌年の県大会に出場し優勝。県大会後は、仕事の合間を縫って群馬県の師匠に泊り掛けて指導を仰いだり、本番と同じモデルに鹿屋に滞在してもらって練習したりするなど、忙しい毎日が続きました。その成果もあって、4か月後の全国大会で悲願の優勝を果たすことができました。

現在は仕事の傍ら、まつ毛エクステの勉強を始めています。勉強はまだまだ欠かせません。また2年程前から県内外の美容学校のコンテスト審査員や、企業向けの「社員ビジネスメイク講習」の講師もさせていたただくようになりました。女性が綺麗に変身できて喜んでもらえることが美容師の魅力。今後はこの魅力を周囲にもっと伝えていくような活動もしていきたいです。

**FMかのや** 7・2MHz  
12月19日(月) 9時5分から  
**竹迫 由香子さんが出演**  
(予定)